第７回総会が開かれる

「桜の森公園」で盛大に行われましたモニュメント『地・天』の完成式典から早いもので、もう２ヶ月が過ぎました。その余韻を引き継ぐかたちで約４０名の出席を得て第7回総会が５月１７日(日)、ジェフリーすずかで開かれました。欠席者からも、モニュメントに対して「『地・天』は鈴鹿の象徴となるでしょう」、「碧空に突き上がる『地・天』に心を動かされました」等、感謝とねぎらいのメッセージが多く寄せられました。

総会議事は滞りなく進みましたが、会員の関心の一つに昨年度の総会において議決された市長宛の要望書「鈴鹿市の近代化遺産の保存と活用について（要望)」がありました。総会翌日（１８日)、冊子『鈴鹿市の戦争遺跡』の市への贈呈式において、市長様からお考えをお聞きすることができましたので、次の項で紹介させていただきました。

役員選出には、大きな変動がありました。会の発足時から活動を引っぱってこられました加藤共同代表が健康面等から代表を退かれ、これからは顧問的な立場で種々ご指導いただくことになりました。加藤さんには平和資料に向けたこれまでの強い願い・思いを本誌に語っていただきました。加藤さんと交代に中森が竹内とともに共同代表となり、そこに桐生が新たに世話人として加わることになりました（総会３号議案をご覧ください)。引き続きよろしくお願い申し上げます。

また、今年度の会計報告は、従来の一般会計のほか、モニュメント建設の特別会計もあり、二本立ての説明になりました。大変好評な冊子の売り上げ等はこの特別会計に含め、使途等も会員の皆さまにご相談させていただくことでご了解いただきました。

さて、市民の会として大きな活動を成し遂げ、今、ポッカリと大きな穴が空いた感じもしますが、（仮称）平和資料館の設置に向けた会の活動方針が本総会において再確認できたことは何よりも嬉しい限りです。

高齢化等による退会者が増え、発足当時、約１１０名近くおった会員数も現在６０～７０名と減少してきております。そうしたなか、遠くは甲賀市から来ていただいた会員もおられました。「この会の活動がますます重要な時代となってきました」というハガキもありました。こうした熱心な会員に後押しされ、粘り強く本会を継続していかなければならないことを改めて感じた総会でもありました。

２部では浅尾悟さんから、『私と戦争遺跡』と題して、教員としてどのように戦争遺跡と関わってきたかという講話がありました。資料は執筆された冊子で、出席者には無料で配られ、良いお土産ともなりました。

【活動方針を提案する竹内共同代表】

『鈴鹿市の戦争遺跡』１００冊を鈴鹿市に寄贈

～平和資料館の設立を市長に要望～

「市民の会」は、モニュメント『地・天』の完成を機に発刊した冊子『鈴鹿市の戦争遺跡』１００冊を５月１８日、鈴鹿市に寄贈しました。執筆・編集した浅尾悟さんをはじめ、加藤二三子、竹内宏行、中森成行の前現共同代表が市長室で末松則子市長に面会。図書館や学校、公民館などに置いて市民に見てもらってくださいと手渡しました。

前日の総会で引くことになった加藤前代表が「モニュメントの完成式典では、出席してごあいさつをいただきありがとうございました」とお礼を言い、「モニュメントの意義を肉付けするものとしてこの冊子をつくりました。市の施設で役立ててほしい」と話しました。浅尾さんも冊子に込めた思いを伝えました。

冊子の贈呈を終えたあと、竹内代表が「次の課題は平和資料館（仮称）の設立です。ぜひ本格的に検討してほしい」と要望しました。昨年３月、市民の会の第６回総会で決議し、市に提出した「鈴鹿市の近代化遺産の保存と活用について」と題した要望書を改めて末松市長に見てもらいました。浅尾さんが「この２０年間に収集して手元にある戦争関連の資料は数百点にのぼります。個人の所蔵で終わっては意味がありません。公設の資料館をつくって、市と市民の財産として生かしていただければと思います」と市長に訴えました。

取材で立ち会った報道関係者の質問に、末松市長は「空き教室の利用などを含め検討していきたい」とお答えになりました。末松市長は初当選したばかりのちょうど４年前、ＮＴＴ西日本から市民の会が譲り受けた格納庫の部材を三宅町の文化財倉庫に保管する決断をしていただきました。いまもそこに保管してもらっており、資料館の展示物にするつもりです。

鈴鹿市議のみなさま

このたびは当選、おめでとうございます。

私たち「市民の会」は発足して７年目になります。旧海軍の巨大格納庫の保存はかないませんでしたが、跡地に、それがあったことを象徴するモニュメント『地・天』を建立し、さらに冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」（A5 版、75 ページ）を発刊しました。

今後は「平和資料館」（仮称）を設立すべく、鈴鹿市に強く働きかけていく考えです。議員のみなさま方のお力添えがなければ実現はできません。ご支援、ご助力を切にお願いする次第です。

冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」を贈呈させていただくとともに、昨年３月、市に出した平和資料館設立の要望書と会報２１号を同封します。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
（共同代表　竹内宏行・中森成行）

【鈴鹿市議全員にも贈呈】

この４月の市議選で当選した３２人の市議会議員全員にも冊子『鈴鹿市の戦争遺跡』を贈呈しました。今後、平和資料館設立実現のためご助力いただきたい、とお願いしました。

活動を振り返って

加藤二三子

２００７年度に鈴鹿市考古博物館で催された歴史講座の最終回で、岩脇彰先生の「三重県内の戦争遺跡」の話を聞き、鈴鹿市民として後世に伝えていく必要を強く感じました。知人に呼びかけ、一年間の準備期間を経て２００９年３月、「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」の発足にこぎつけました。

その直後に浮上してきたのが、「ＮＴＴ西日本研修センタ跡地利用計画」です。開発の名の下に、格納庫、滑走路跡、射撃場等が取り壊される恐れがあるということでした。同年8月、ＮＴＴ西日本不動産企画室に「取り壊すことなく、文化財として残すよう」要望書を提出しました。

２０１０年、貴重な旧海軍航空隊の格納庫が土地利用転換計画によって壊されることなく保存できるよう、「ＮＴＴ研修センタ跡地利用に関する特別決議」を総会でし、関係当局に強く働きかけました。あらゆる努力を重ねたものの方針は変わらなかったことから、方針撤回の署名活動を全国的に展開し、１２,０１８人の署名をＮＴＴ西日本に提出しました。

２０１１年１月２２日(土)には鈴鹿市文化会館で「格納庫保存を考える市民シンポジウム」を開催。３００人を超える参加者があり、多くの議論が交わされました。しかし、方針撤回の願いは届かず、格納庫の撤去が最終決定されました。翌２月３日、ＮＴＴ西日本本社にて、「第４格納庫部材保存をする合意書」を交わしました。そして２月２０日、格納庫見納め見学会を催し、１５０人が参加しました。

２０１２年８月１８日(土)、１９日(日)、２０日(月)の３日間、「第１６回戦争遺跡保存全国シンポジウム鈴鹿大会」が鈴鹿市文化会館で開かれました。全国から集まった参加者は４６０名と過去最高で、三重県知事、鈴鹿市長、市議会議長の来賓挨拶があり、熱い議論と現地見学会を行ないました。

同年１０月、不戦と平和を象徴するモニュメントの建立と部材を活かす「平和資料館（仮称)」設立の方針を打ち出し、市に要望しました。２０１３年３月、モニュメント建立の募金集めを開始し、１年間で県内外の個人３０３人、法人・団体１８の方々から目標額を寄せていただきました。２０１５年２月２８日(土)、モニュメント完成式典を「桜の森公園」の戦争ゾーンで催し、市長・市議会議長はじめ多くの関係者や募金者・市民の会会員などが参列し盛大に完成を祝いました。完成を記念して冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」（執筆編集・浅尾悟）を刊行しました。

今年は戦後７０年となります。戦争体験者が高齢化し、風化と破壊が進む戦争遺跡や戦争遺物の保存活用が一層重要な課題となっています。悲願である「平和資料館（仮称)」の設立を市に働きかけていくことが市民の会の今後の運動の柱です。

冊子の贈呈式で話された末松市長の「戦争遺跡は、マイナスイメージだけではない」というお言葉に「歴史は教訓を残す」という言葉を重ねながら、「平和都市宣言」をした鈴鹿市に前向きに検討していただくよう切にお願いするものです。

末筆ではありますが、私事、このたび健康面から共同代表を退任させていただくことになりました。６年間、みなさまには大変お世話になりました。ありがとうございました。

【共同代表辞任の挨拶をする加藤さん】

「私と戦争遺跡」講演要旨

浅尾　悟（白鳥中学校教諭）

１９７９（昭和５４）年、教員に採用され、新任として亀山市立亀山中学校に着任した。歴史好き、とりわけ近世城郭に興味をもっていた私にとって亀山城内にある亀山中学校で教鞭をとることは何か運命を感じた。ここで大学で専攻していた近世（江戸時代）を中心に教育実践を重ね、その成果は教育研究全国集会で報告した。そこで私はその後の教育や人生を変える出会いをする。全国の報告の半数以上は「平和教育」や「地域の戦争の教材化」の実践報告だったのである。「このまま近世ばかりやっていていいのか」と自問自答し、「平和教育」の必要性を強く感じたのである。

その後、県と市で文化財行政に携わることになり、遺跡の発掘調査や文化財保護行政に身を置くことになった。しかしこの６年間は決して遠回りではなく、遺跡・文化財の価値、遺跡調査方法、文化財保護の行政面での流れなどを学ぶことができた貴重な６年間であり、その後の戦争遺跡の調査や保護で大変役立っている。

１９９３（平成５）年、学校現場に復帰し、鈴鹿市立千代崎中学校に着任した。ここは戦時中、三菱重工業鈴鹿工場があった場所で、やはり運命めいたものを感じ、この年から本格的に戦争遺跡の調査が始まった。授業で教材化するために先ず、資料を探した。花井圭一さんが中心となって鈴鹿市の市制発足経緯などをまとめた「２０年のあゆみ」や「鈴鹿市史」などはあったが、断片的であり、鈴鹿市の戦争遺跡を体系的にまとめたものは皆無であった。「ないものは自分で作る」との思いで、資料の探索を開始した。関係者からの聞き取りの他、古書店を回ったり、東京の防衛省図書館に訪れ、戦史資料の中の鈴鹿市関係の資料をコピーしたりして、戦友会会誌・手記や部隊図面、米軍撮影の航空写真などを入手した。住宅地図や地形図を使い、現在地に旧軍施設の位置を現場で確認し、遺跡（部隊）の範囲を確定し、地図に落とした。その成果は「鈴鹿市の旧軍施設」の冊子にまとめ、授業で使用した。生徒の反応は大変よかった。戦争体験者から多くの聞き取りをしたが、ここで大事なことは体験者の方々の証言をそのまま信用しないことである。体験者は他の人から聞いたことを自分が体験したかのように語ったり、記憶の欠損部分を自分でストーリーを作ってしまうからである。しかし、体験者からの証言は大変貴重であることには変わりなく、証言から何が真実であるかを見抜くのは、聞く側の技量・知識と正しい歴史認識である。

１９９５（平成７）年、地元のＣＮＳ（ケーブルネット鈴鹿）の依頼で、戦後５０周年番組を制作することになり、編集、出演することになった（３０分番組２本）。改めて市内の戦争遺跡を周り、映像を記録していったが、その時、三畑町の北伊勢陸軍飛行場掩体の存在を初めて知つた。番組放送後、視聴者からＣＮＳに多くの意見が寄せられたと聞き、その多くは「鈴鹿市にこのような戦争遺跡があることを初めて知った」ということであった。それまで私の取り組みは学校教育の中で、あくまで「教材化」の一つであり、こどもが対象であったが、このＣＮＳ出演をきっかけに、一般市民への周知の大切さを改めて痛感した体験であった。

１９９８（平成１０）、鈴鹿市（鈴鹿市教育委員会）は市制６０周年記念の記念誌を作成することになり、花井圭一さんを会長に、菊池三郎さん、岩脇彰さんと私の４人で「旧軍施設調査研究会」を立ち上げ、調査・研究を進めた。約４年間の調査の結果、４人で執筆分担をして、私が写真、図面、編集を担当し、２００２年「鈴鹿市のあゆみ（Ａ４版６２㌻）」が完成した。鈴鹿市の戦争遺跡を体系的にまとめたものとしては最初の書籍であり、大変好評をいただいた。一般販売もされたが、部数が少なく、すぐ在庫はなくなった。

２００８年、加藤二三子さん、竹内宏行さんらの呼びかけで「戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」が作られ、私も参加させいいただき、翌年正式に発足した。この長い会名には意味があり、特に「平和利用」の箇所が重要である。「保存する」だけなら単なる過去の遺物でしかない。しかし、その戦争遺跡を通じて、鈴鹿市にも戦争があり、この遺跡が戦争とどう関わったかを知り、この遺跡をこれからの平和な社会を築いていく上でどのように利用・活用していくかが重要であり、市民やこどもたちに正しく伝えていく戦争遺産としなくてはならないからである。これからも「鈴鹿市にも戦争があった」ことにこだわって鈴鹿市の戦争遺跡の調査・研究に取り組んでいきたい。

伊勢新聞　２０１５年５月１９日(火)

鈴鹿の戦争遺跡知って

市民の会が冊子、市に寄贈

【鈴鹿】鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会（竹内宏行、中森成行共同代表）は十八日、同市役所を訪れ、冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」を百冊、寄贈した。市内小中学校、図書館、公民館に配布する。

来庁したのは竹内代表（七二）、中森代表（六六）のほか、加藤二三子前共同代表（八〇）、冊子を執筆編集した会員の浅尾悟さん（五九）の四人。

加藤さんは「次代を担う子どもたち、市民の方たちにも活用してほしい」と、末松則子市長に冊子を手渡した。

冊子はＡ５判、七十五ページ。三千部作成した。昭和十三年に開隊した鈴鹿海軍航空隊、同十八年に正式稼働した鈴鹿海軍工廠（こうしょう）など、市内の戦争遺跡をほぼ網羅し、写真や地図などの資料を使ってまとめた。

冊子をまとめた浅尾さんは市内の戦争遺跡について調査研究しており、市立白鳥中学教諭も務める。「まだまだ研究の余地があり、分かっていないことも多い」と話した。

末松市長は「鈴鹿の歴史を子どもたちに考えてもらういい機会。市が「軍都」として誕生したことをマイナスイメージだけ捉えるのではなく、歴史として理解を深め、伝えていきたい」と話した。

希望者には一冊五百円で販売する。問い合わせは竹内代表＝電話０９０（２７７２）１４７６＝へ。

末松市長（左）に冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」を寄贈する加藤さん（右）と浅尾さん＝鈴鹿市役所で

中日新聞　２０１５年５月２１日(木)

中日新聞　2015年(平成27年)5月21日(木曜日)

不戦の思い 20年の成果 冊子に

鈴鹿市に寄贈 浅尾さん戦争遺跡紹介

冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」を手にする浅尾悟さん＝鈴鹿市役所で

市民団体「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」は、市内にあった旧海軍・陸軍の施設を紹介する冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」を市へ寄贈した。「軍都」として誕生した市の歴史を振り返り、不戦の思いを次世代に伝える一冊は、会のメンバーで白鳥中学校教諭の浅尾悟さん(五七)が、二十年をかけた調査や研究の成果を詰め込んだ力作だ。

市は一九四一(昭和十七)年、二町十二村が合併した。四百四十万平方㍍もの広さの海軍工廠(こうしょう)などのため、軍主導で市の市域の一割近くを占める呼ばれる理由だ。鈴鹿川以南に海軍、以北に陸軍の施設が次々と建てられ、当時の施行を進めたのが軍都と際、敷地を確保しやすくするなどのため、軍主導で市

ほどだった。

「鈴鹿市の戦争遺跡」(A5判、七十五㌻)は、こうした施設が平和の尊さを伝える「生き証人」になるとの思いから作られた。海軍工廠、鈴鹿海軍航空隊(南玉垣町など)、陸軍第一航空軍教育隊(高塚町)などの施設九カ所を詳しく紹介。ガイドブックのように、地図や写真をふんだんに盛り込んだ。巻末には詳細な年表を付けた。

海軍工廠で作ったり使われたりした機銃弾や工具、航空訓練用の計器類や講義テキストなど冊子に掲載した当時の遺物や文書、写真などの大半は、浅尾さんがこの二十年ほどで収集した約六百点の資料の一部という。

浅尾さんは「戦後七十年で体験者が減るとともに、資料もどんどん散逸している」と話す。

浅尾さんは、市民の会の前共同代表、加藤二三子さん(八〇)らとともに市役所を訪ね、冊子百冊を末松則子市長に手渡した。寄贈された冊子は、市内の小中学校、図書館、公民館に置かれる予定だ。希望者には一冊五百円で分ける。問市民の会共同代表の竹内さん＝090(2772)1476

(鈴木智重)

お知らせ

会費未納の方は同封の払い込み用紙で郵便局に振り込んでください。今年度から、**会費を２年以上未納の方は退会扱い**とさせていただきますので、ご了解ください。

【発行】　鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
代　表　竹内宏行、中森成行
〒 510-0254 鈴鹿市寺家１－２－４７
電　話　　０５９－３８８－６５０８
メール　ta818hi@mecha.ne.jp
ＨＰ　http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm